

授業科目名 <英訳>	文化行為論 2 B Theories of Cultural Practices 2B	担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 石井 美保
---------------	--	-----------------	-------------------

配当 学年	修士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	----	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

分野名	文化人類学
-----	-------

[授業の概要・目的]

文化行為論は、人々の日常的実践に焦点を当てた文化・社会人類学である。この講義では、各自が関心をもつ文化人類学のテーマについて受講者が発表を行い、参加者全員でのディスカッションと、講師による解説を中心に授業を進める。

受講者は授業を通して人類学的なテーマに親しむだけでなく、発表とディスカッションを通してテキストの読解能力を深め、フィールドワークの方法等を積極的に身につけることが期待される。また、たとえば2015年度はアクティヴィズムと人類学的介入の問題、2016年度はナショナリズムとアイデンティティ、およびマテリアリティと記憶の問題が中心テーマとなったように、出席する受講生の問題関心に即して授業のサブ・テーマが自発的に構成されていくことも、本授業の特色である。

[到達目標]

現代人類学の重要なテーマを学習するとともに、発表とディスカッションの場で、それぞれの受講生の問題関心に沿ったテーマを積極的・多角的に探求することを通して、日常を相対化する視点を身につけることができる。

また、この授業では受講生同士がディスカッションを通して互いの問題関心や意見を知り、同世代の鋭い思考や行動力・探究力に触れることで、互いに刺激し合うことを目標としている。そのため、ゼミでは受講生の積極的な発言を期待する。

[授業計画と内容]

最初の複数回の授業では、講師が人類学的思考の基礎とフィールドワークの方法論を概説する。以降の授業では、受講者がそれぞれ（場合によっては複数で）テーマを定めて研究発表とディスカッションを行う。

参考までに、これまでの発表テーマ（受講生が取り上げた民族誌的テキストのテーマ）の一部を以下に挙げる。

- ・京都のオカルティズムと物語化のしくみ
- ・公害をめぐる記憶と物質性
- ・人類学とマルクス主義
- ・移民3世のアイデンティティ
- ・沖縄における豚の消費と民俗カテゴリー
- ・インドにおける「不可触民」問題・先住民族、アクティヴィズムと人類学的介入
- ・シンクレティズム
- ・開発とジェンダー
- ・憑きもの
- ・イスラエル/パレスチナ紛争と移動の経験
- ・巡礼考
- ・人と動物の人類学
- ・アナキスト人類学
- ・死の儀礼
- ・「近代的個人」と憑依現象
- ・伝統の創造
- ・シャマニズムとパースペクティヴィズム
- ・国際結婚とアイデンティティ形成
- ・アフリカ農村におけるモノのやりとりと関係の可視化
- ・人類学における生物性と自然
- ・人類学とオルタナティブ経済論
- ・映像人類学と捕鯨論
- ・ランドスケープ論
- ・管理社会の人類学 ほか

文化行為論 2 B (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席（50％）、授業での発表（50％）

【教科書】

授業中に指示する
授業中に指定する

【参考書等】

（参考書）

以下の文献中の石井論文を参照のこと。

石井美保著『環世界の人類学』2007年、京都大学学術出版会/石井美保著『精霊たちのフロンティア』2007年、世界思想社/吉田匡興・石井美保・花淵馨也編『宗教の人類学』2010年、春風社/西井涼子編『時間の人類学』2011年、世界思想社/春日直樹編『現実批判の人類学』2011年、世界思想社/菅原和孝編『身体化の人類学』2013年、世界思想社。

（関連URL）

<http://www.mihoishiianthropology.com/>

【授業外学習（予習・復習）等】

次回に取り上げるテキストを事前に必ず読んで、自分なりの質問やコメントを準備してくること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けない。問い合わせはmishii@zinbun.kyoto-u.ac.jpにて受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。